

## 第7章 教育研究等環境

### 1. 現状の説明

#### (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか

##### <1> キャンパスの現況

文京学院大学は4学部、4研究科および短期大学を擁する総合大学である。それを本郷キャンパス(東京都文京区)とふじみ野キャンパス(埼玉県ふじみ野市)に分散配置し教育活動を展開している。また、ゼミナール活動を支援すべく軽井沢にセミナーハウスを置き夏季・春季に開設し年間2,000名余りがゼミ等の合宿に利用している。

そのほか、本郷には学生寮としてドーム本郷(20名)・ドーム西片(36名)が、ふじみ野にはドームふじみ野(62名)がキャンパスに隣接して配置されている。

本郷キャンパスは、都市型キャンパスとして機能性に重点を置いた構成だが、その中でも学生が集い学ぶため、ゆとりのある空間構成、そしてアカデミックで落ち着けるデザイン構成に心掛けた明るい開放的なキャンパスを構成し、都心に置いた方が様々な意味で適切と思われる経営学部・外国語学部・保健医療技術学部臨床検査学科・および各研究科が設置されている。

ふじみ野キャンパスは本郷キャンパスからの移動時間としては1時間程度のところではあるが、郊外型キャンパスとして緑の多い中に低層建物を効率よく配置し、周辺にグラウンド(第1・第2)やテニスコートから構成された使いやすいキャンパスである。

また、教育・研究を支援する組織として総合研究所が研究支援を計画的に行っていると共に、各キャンパスに専門領域の研究推進と教育への活用を目的として次のような研究センターが配置されている(各センターの活動等については第2章に詳述した)。

##### 1) 本郷キャンパス

情報教育研究センター、コンテンツ多言語知財化センター、文京語学教育研究センター(略称: BLEC)、子ども英語教育センター(略称: CLEC)、国際交流センター、学習サポートセンター、臨床心理相談センター、スポーツマネジメント研究所

##### 2) ふじみ野キャンパス

情報教育研究センター、国際交流センター、地域連携センター(略称: BICS)、保育実践研究センター(通称: ふらっと文京)、心理臨床・福祉センター(通称: 「ほっと」)、環境教育研究センター

##### <2> 校地・校舎の整備計画方針

キャンパスの整備計画に関しては、2011(平成23)年に創立90周年事業計画を策定し実行を開始したが、それに盛り込まれているコンセプトワークを踏まえ中期的計画「キャンパス整備基本デザイン(創立90 - 100周年に向けて)」が2012(平成24)年に策定された。

計画の中心に据えられたのは、校舎の耐震性の向上と築年からの経過が25年以上の建物の大規模改修およびバリアフリー等の設備整備である。

まず、2011(平成23)年度から3年間で本郷キャンパスの耐震化を東本館(実験実習棟)の新築、S館の建て替えを中心として行い旧耐震基準建物3棟を解体し、2014(平成26)年度には耐震整備を完了させる。

引き続きふじみ野キャンパスにおいても2013(平成25)年度から3年計画で2015(平成27)年度までに旧耐震基準建物の補強の検討および実施を行い、全体の耐震整備を完成させる。(校舎以外の寮等で、入居の状況と補強の程度の見合いで解体することもありうる)

関連設置校においても一部残る旧耐震基準建物の補強等を調査の上、同期間に整備を進めていくこととしている。またこの整備を通じて併せてバリアフリーの整ったキャンパス整備を同時に進行させる。

「キャンパス整備基本デザイン(創立90-100周年に向けて)」の基本4項目

- ① 安全性向上に向けたキャンパス整備
  - ・耐震性向上に向けた計画的な整備の実施
  - ・築後25～30年経過建物の計画的な大規模修繕計画
- ②バリアフリー整備の推進とコモンスペース等の空間の適切配置により学びやすく・集いやすく・温かく優しい空間の創造
- ③キャンパスの立地特長を活かした整備
  - ・本郷：都市型キャンパスとして利便性の優れた教育研究環境構築
  - ・ふじみ野：郊外型キャンパスとしての特長を活かした整備と本郷の運動場不足の補完をも兼ね備えた教育環境の整備
- ④環境に配慮したキャンパス整備

(資料7-1中期計画「キャンパス整備基本デザイン(創立90-100周年に向けて)」)

## (2)十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか

### <1>大学全体

大学全体で敷地面積97,555.36㎡(学生一人当たり23.2㎡)、校舎面積56,862.33㎡(学生一人当たり13.5㎡)となっているが、これをキャンパスごとに見てみると、本郷キャンパスは校地面積14,764.8㎡、校舎面積27,988.64㎡(学生一人当たり13.6㎡)である、また、ふじみ野キャンパスは、校地面積82,790.54㎡、校舎面積28,873.7㎡(学生一人当たり13.3㎡)となっている。

本郷キャンパスとふじみ野キャンパスの移動時間は概ね1時間で保健医療技術学部においては臨床検査学科が1学年(ふじみ野)2～4学年(本郷)と分け教員も行き来しているが、さしたる不自由はなく、グラウンドもふじみ野に偏在しているがクラブ活動等に特に支障をきたしていない。ただ、学生の移動は極力避けたいとして共通授業については、TV会議授業を展開できる環境も併せて整備し、頻繁に利用されつつあり、現在2チャンネルのシステムを4チャンネル程度まで充実していくこととしている。

#### 1)本郷キャンパス

本郷キャンパスは東京メトロ南北線東大前駅から出ると、その場所が大学の正門であるという好立地で、学生・教職員の通学に便利だけでなく、文教地区の中で研究環境として各分野の学会・研究会・学術発表等に活発に活用される等、大変良好な位置を占めている。また、講義室・演習室等は5,312.61㎡(学生一人当たり2.6㎡)を擁すると共に、実験実習室もコンピュータ実習室および臨床検査学科の実験室を中心に2,589.29㎡(学生一人当たり1.3㎡)が配置され活発な教育と研究を助けている。講義室演習室の学生一人当たり2.6

m<sup>2</sup>の面積は都心キャンパスとして他と比較しても広い面積を要しているが、これは少人数教育のために大教室よりも中・小講義室の整備が充実しているためと言える。

そのほか、学生食堂が2カ所(合計席数644席)、コンビニスタイルの売店を配置すると共にクラブ部室とは別に学生が自由に使える空間(Together Room:2室で172m<sup>2</sup>)を設置し、学生の自主的で多目的な活動を支援する環境が整えられている。図書館については(3)図書館サービスにて詳述するが、2011(平成23)年度末現在、設置面積:2,253m<sup>2</sup>、蔵書170,378冊が設置されている。

## 2) ふじみ野キャンパス

一方、ふじみ野キャンパスは、東武東上線ふじみ野駅からスクールバスで約7~8分の位置に設置され、緑の多い環境の中に建物があり、使いやすい良好な環境を持つ美しいキャンパスである。講義室・演習室が4,089.67m<sup>2</sup>(学生一人当たり1.9m<sup>2</sup>)、実験実習室が4,468.48m<sup>2</sup>(学生一人当たり2.1m<sup>2</sup>)となっており、本郷に比較して一般講義室は若干少なく実験実習室が多いという構成になっている。これは、人間学部・保健医療技術部など実習講義が多く組み込まれる資格系の学部・学科の持つ特性が表れている結果と言える。

また、ふじみ野キャンパスには2つのグラウンドとテニスコート・フットサルコートが置かれ、種目に合わせた利用がなされており、本郷キャンパスからも運動場として部活を中心に利用が行われている。そのほか本郷と同じように学生食堂(東館576席)・学生ラウンジ(西館293席)の他ラウンジにコンビニタイプの売店が配置されている。そしてこれも本郷と同じように学生が自由に使える空間として学生ホール(2階建て1,090m<sup>2</sup>)にB's COMMONと命名される学生自由空間を設けると共に、学生食堂前の吹き抜け空間(アトリウム:840m<sup>2</sup>)にも可動テーブル椅子220席も常に利用でき、ゆったりと時間がすごせるような環境を提供している。図書館については、2011(平成23)年度末現在、設置面積:1,561m<sup>2</sup>、蔵書:121,046冊が設置されている。

## 3) セミナーハウス

また、大学附属の施設として設置されている軽井沢セミナーハウスは、軽井沢駅から南に直線で1.8Kmの地点に設置され、中庭を囲んだ2階建て建物があり、宿泊室は学生96名(4人宿泊室24部屋)、教員用のツインルーム5室と110名用の食堂、4室で収容人員120名のゼミ室、大浴室・小浴室等で構成されている。外部には特約テニスコートや自転車設置され、夏季、春季の休暇期間にはゼミ合宿、特別養成講座、クラブ活動等を中心に個人利用も含め大いに活用されている(資料7-2「施設・設備の面積等」、資料7-3「大学総合配置図」)。

## 4) 施設・設備の責任体制

各キャンパスの安全・衛生を確保するシステムについては、全体の統制は法人事務局がとるようになっているが、各種法定点検管理(受変電設備、防災設備、昇降機設備)、保守点検管理(空調・換気設備、ポンプ、放送設備)、環境衛生管理(受水槽清掃、消毒、害虫駆除)については、各キャンパスの事務センター(管轄は総務グループ)に於いて発注を含めて行い、その報告を法人事務局宛に行い適切な管理を確認している。

安全面は、各キャンパスで自衛消防組織を結成し、定期的に防災訓練等を行い防災・防火等の災害に対応できるようにしている。また、キャンパス内のセキュリティとして、警備会社に委託をし、24時間体制で校舎・施設の安全を管理している。

## 5) バリアフリー・安全等への対応

施設・設備の安全性への取り組みとしては、特にバリアフリーには取り組みを強化しており、ほとんどの部分において段差の解消、リフト・エレベーターの設置・誰でもトイレの各ゾーンへの設置等が済む状態になっている。しかし、本郷キャンパスのS館および医学技術校舎棟に関連する部分においてその一部が構造的な理由から実現できていなかったが、中期計画においてS館の建て替えを決定したので東キャンパス、西キャンパス共に解決が図られることとなった。また、本郷キャンパスにおいては、保健医療技術学部の薬品管理等の要請から共同研究棟および大学院フロアへの出入はICカードによる管理で行うと共に、建設工事の進展と共にIC錠による入場チェックを全体に広げキャンパス全体の安全を確保していくこととなった。

震災等の非常時の対応として2012(平成24)年3月末現在で、非常用食料(5,400食・水5,136本)・メディタンクによる飲料水5400ℓ、毛布320枚、簡易トイレ2,968セット等が用意されているほか、2012(平成24)年度から新入学生対応として個人パッケージ(三日分の水・食料・エマージェンシー・シート)を購入開始し、予備を含めて2,291セットをそろえ今後毎年新入生分(約1,200セット)を買い揃え更新していくこととしており、この数字をほぼ収容定員にて按分し本郷・ふじみ野の両キャンパスに保存している。(資料7-4「災害備蓄品一覧」)。

## (3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか

## &lt;1&gt; 資料の整備状況

## 1) 図書館資料の年間増加数と所蔵総数

2011(平成23)年度の蔵書総数は本郷キャンパス170,378冊(対前年比3,824冊増加)、雑誌種数は331種(対前年比21種減少)、AV資料点数は3,499点(対前年比164点増加)、ふじみ野キャンパス121,046冊(対前年比3,198冊増加)、雑誌種数は324種(対前年比5種減少)、AV資料点数は3,890点(対前年比150点増加)である。

両図書館を合わせると蔵書数291,424冊、雑誌種数は655種、AV資料点数は7,389点である。

## 2) 電子ジャーナル・電子ブック・電子データベース

2002(平成14)年度より、オンライン・ジャーナル・データベースの導入を開始した。主に数千タイトルの洋雑誌の本文原文情報が利用できる。保健医療技術学部では、Science Direct等の医療に詳しい電子ジャーナルパッケージを導入し、海外の文献にも触れられるような対応を行っている。

## 3) 予算と資料選定

図書予算は、各学部・大学院研究科ごとに設定されており、図書、雑誌、視聴覚資料を購入している。図書については図書委員会での審議により、教員の選定図書を主とすることとし、そのほかに学生の希望図書も極力購入することに努めている。また、両者を補完するため図書館での選定を行っている。

## 4) 資料の保存と廃棄

図書委員会での審議した基準に基づき除籍を行っている(資料7-5「図書館運営委員会議事録」)。

## &lt;2&gt; 利用環境

文京学院大学には、各キャンパスに図書館を設置し、それぞれ図書館長を置き、独立し

た運営を実施している。1995(平成7)年の本郷図書館の業務電算化開始以降、本郷・ふじみ野両図書館では同じシステムを使用していたがサーバーは統合されていなかった。そのため館内で検討を重ね、2008(平成20)年度から日本事務器株式会社の「NeoCILIUS」を導入した。同システムは分館対応型であり、これにより両館のシームレスなサービス業務環境が整備された。

#### 1) 年間の利用者数と貸出冊数

2011(平成23)年度の本郷図書館における年間の利用者数は98,337名で、年間の貸出冊数は23,342冊である。ふじみ野図書館では、年間の利用者数は90,150名、年間貸出冊数は22,825冊である。

学生の利用を促進させる施策として、テーマを定めそれに沿った資料を紹介するブックフェアや特徴づけを行った新刊本の紹介などを実施している。

#### 2) 職員の配置について

本郷・ふじみ野両館合わせて18名(教員兼任の館長2名と、8名の専任職員と6名の臨時職員、2名の派遣職員)と学生スタッフで運営している。内、司書資格を有する職員は本郷5名(専任3、臨時・派遣各1)、ふじみ野3名(専任・臨時・派遣各1)である。

また、平日の夜間と土曜日の午後は業務委託している。

#### 3) 開館時間について

図書館の開館時間については、利用者からの要望に応え延長を重ねてきた。現在は、本郷図書館が平日・9時から22時、土曜日・9時から19時であり、ふじみ野図書館が、平日・9時05分から21時、土曜日・9時05分から18時である。(時間は共に授業開講期間)。

#### 4) 座席数

本郷図書館に260席、ふじみ野図書館に285席がそれぞれ設置されており定期試験が近くなるとほぼ満席状態になる。

#### 5) 情報検索設備の利用状況

OPAC検索や、調べ物を行うために本郷・ふじみ野両館合わせて53台のPCを設置している。

#### 6) 文献探索ガイダンスの開講

初年次教育の一環としての利用ガイダンスやゼミ単位の検索ガイダンスを実施している。内容は図書館で導入しているデータベースを中心とした学術論文や、新聞記事の探し方等である。

#### 7) 紀要論文の公開

図書館ホームページ上にて、本学4学部の紀要論文を継続的に公開している。

(資料7-6「図書館入館者・蔵書数年次比較表」、7-7「図書館利用案内・図書委員会議事録」、7-8「本郷図書館平面図」、7-9「ふじみ野図書館平面図」、7-10「文献探索ガイダンス資料」、7-11「紀要公開ページ(写し)」)

### <3> 学術情報相互提供システムの整備

#### 1) 相互協力システム

国立情報学研究所のNACSIS-ILLシステムに参加して他大学図書館との相互協力を行っている。

**(4)教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか****<1>大学全体**

講義・演習に使用する一般教室のほか、学生が自由にネイティブと話せるチャットラウンジ、自由にインターネットを使用できるマルチメディアラウンジ、何でも相談できる学習サポートセンター等の教育施設を設置している。また、学生の学習支援および教員をサポートするために、チャットラウンジパートナー、学習サポートセンター(院生TA)、国際交流センターチューター、TA(情報関係演習、その他授業等)を配置している。

全専任教員の教育研究活動を支援する環境として個別に研究室を整備しているほか、経常的研究費として「個人研究費規程」により個人研究費を支給し、経常的な研究条件を整備している。また、学内の総合研究所の研究費助成制度、科学研究費補助金等の学外補助金の応募についても支援している。

学生の教育環境に関する事項としては、まず、コンピュータ環境について記載する。1年次を中心に開講しているコンピュータの基礎技能を修得する科目については、きめ細かい指導を必要とするため、TA(ティーチング・アシスタント)を1名ずつ配置してきていたが、CG制作の科目においても、自らの経験を生かした補助的指導の役割を担うため、本学で学生としてCG関連の教育を受けた卒業生をTAとして採用、活用している。

続いて、語学学習環境に関することとして、チャットラウンジについて記載する。本学の特徴として、ネイティブを配置したチャットラウンジが挙げられる。英語および中国語のネイティブを常時配置して、自由に会話を楽しみながら勉強できる環境を用意している。

大学院レベルの英語、中国語のネイティブを「チャットパートナー」として配置し、授業の枠にとらわれない自由な雰囲気の中で、学生が自ら培った中国語の会話力を実践するための「チャットラウンジ」をキャンパス内に設けており、昨今、ビジネスにおいて急激に需要が高まっている英語、中国語習得へ環境を整えている。

**<2>教員の研究環境**

教員の研究活動については、本学の「個人研究費規程」により、専任教員が個人で実施する学術研究のため、研究図書、機器備品および実験用消耗品等を購入しようとする場合、下記のような助成が行われている。

- 1) 支給限度額は、一人年間30万円支給する
- 2) 用途は、研究図書、研究用機器および消耗品等の購入並びに研究のための調査費等研究活動に直接使用する経費とする。
- 3) 15万円を限度として学会出席等の助成金に転用が認められる。研究旅費に関しては「学会出張等助成規程」があり、専任教員がその所属する学会もしくはこれに準ずる研究会等に出席する場合は、下記のように助成が行われている。
- 4) 年間20万円を限度とする。
- 5) 支給を受けた助成金の総額が限度額に達するまで分割して受けることができる。  
ただし年2回までとする。
- 6) 学会等において研究発表を行う場合は、年1回に限り1万円を別途支給する。
- 7) 個人研究費から15万円を限度に転用することができる。
- 8) 在外研究費に関しては「在外研究員規程」並びに「在外研究員規程細則」があり、本学(併

設短期大学を含む)に引き続き4年以上勤務し、一定期間海外にあつて学術研究、調査に従事することを希望する専任教員の中から適当と認められる者を在外研究員として選出し、往復旅費、滞在費等の助成を行っている。助教講師以上の専任教員には全員に個室が配置されている。専任教員用の個室の広さは20～24㎡で、空調・換気設備が完備されており、机上500LX以上の照明がある。さらに教員の研究・学生指導上必要な家具(教員用の机と椅子、ロッカー、書架、打ち合わせ用のテーブルと椅子)が配置されている。情報受信設備としては、電話、学内LANの配線がなされている。トイレ、洗面、給湯設備は集中配置されている。

本学の「大学教員就業規則」の第3条第2項の(4)には「常に研究に努め、研究の成果を、本学紀要・学会誌・専門誌への掲載、著書等の刊行、学会・演奏会・展覧会等での発表等をもって、公表するように努力すること」と、教員に研究とその公表を義務づけると同時に、大学における就業時間等については、同規則の第13条第2項並びに第3項に、下記のように記されている。

「教員は、原則として1週に4日以上出勤し、定められた授業時間表に従い12時間以上授業を担当すると共に、授業以外の時間にも学生指導その他前条第2項の責務の遂行に当たることとする。」

「教員は、全項の責務の遂行に支障をきたさない限り、前2項にかかわらず、その裁量により、本学以外の場所で授業の準備、研究その他を行うことができる。ただし、本学が緊急時に要請または依頼をした場合には、その要請または依頼されたことを優先させるものとする。」

さらにまた本学の「在外研究員規程」第2条には、「一定の期間海外において、学術研究・調査に従事することを希望する専任教員の中から、適当と認められた者を在外研究員とする」と定められており、海外での研究時間確保の可能性が保障されている。

次に教員・学生の研究をサポートする組織として第2章に詳述されている研究センターがあるが、本章において下記の「情報教育研究センター」の活動について説明の補強を行う。

### <3>情報教育研究センター(本郷・ふじみ野)

1997年(平成9年)に設置された情報処理に関する教育および研究をサポートするセンターである。大学全体の情報教育システムの管理、学内LAN、教室および研究室のコンピュータの保守管理業務、教員の教育・研究のサポート、学生の学習サポート、各種情報処理検定資格取得の支援を行っている(資料7-12「情報教育研究センター利用案内」、資料7-13「申請書類提出依頼」、資料7-14「Webメールマニュアル」)。

本郷キャンパス(経営学部、外国語学部、短期大学、保健医療技術学部)では、2004(平成16)年度に、マルチメディアラウンジを設置し、B's Diningと共に無線LAN化を実施した。2011(平成23)年度には、教室の無線LAN化を実施した(資料7-15「無線LAN化の案内」)。ふじみ野キャンパス(人間学部、保健医療技術学部)では、2006(平成18)年度に、B's マルチメディアラウンジの設置、2007(平成19)年度から2008(平成20)年度にかけて、B's COMMONに履修登録やインターネット検索用の端末機器を増設した。

マルチメディアを活用した教育の導入の基本となる設備整備状況を、情報教育用コンピ

ュータ室、語学教育用CALL教室、および一般教室に分けて概観する。

本郷キャンパスにおいては、情報処理教育を主な目的として、豊富な記憶メディアやAV機器とのインターフェースを持つコンピュータを整備した実習室(CTR)として、Windows端末計189台(42+42+24+24+57)を備えた5教室と、Macintosh端末計66台(44+22)を備えた2教室、合計7教室を整備している。語学教育を主目的とするCALL教室も、コンピュータ室と同じ装備でWindows端末計109台(42+25+42)の3教室を整備している。ほかに、自習用教室として、CTR教室と同じ装備であるwindows自習室としてWindows端末24台、語学教育用の三ラウンド自習室として、Windows端末24台も用意されている。マルチメディアを活用した教育を実施するのにも非常に適した設備である。そのほかに、ゼミナール等の活動に適したラウンジ形式の教室として、マルチメディアラウンジにWindows端末21台、Macintosh端末14台を整備している。

ふじみ野キャンパスでは情報処理教育を目的とした実習室(情報教育演習室)を6室、複合目的の教室1室、あわせて7教室にWindows端末計297台を整備している。大学院生向けに30台を用意し情報教育設備に組み込んでいるほか、自習用にはB's MODEの2箇所に合わせて26台、情報教育研究センター内にも利用者用に数台を設置し、同キャンパスの情報教育設備(システム)の総台数は368台となっている。学部の特性上Macintoshは6台と少ないが、かわりに全端末がUNIX(Solaris 10)を利用できるマルチOS環境となっている。この他、WindowsノートPC13台を用意し貸出対応しており、さらに図書館にもWindowsノートPC7台を貸出業務委託している。

## (5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか

### <1> 大学全体

本学には、下記の倫理面に関する憲章・規則・綱領があり、倫理面での自制が厳しく求められている。「文京学園教職員倫理憲章」、「文京学院大学・短期大学職員就業規則」、「大学教員就業規則」、「文京学院大学・短期大学倫理綱領」、「文京学院大学・短期大学倫理委員会規則」、「文京学園個人情報保護基本ポリシー」また、近年、社会的にも問題となっている公的研究費については、国のガイドライン等に基づき内部規定を整備している。教員に対しても、他大学における不正使用の事例、科研費の適正な執行の確保のためのガイドライン、本学における取り扱いのルール等に関する説明会を毎年実施している。さらに、内部監査等によるチェック体制も整えている。

## 2. 点検・評価

### ①. 効果が上がっている事項

#### <1> 教育研究等環境の整備に関する方針について

大学は、校舎の耐震性向上について取り組むべく従前から意を尽くしてきたが、特に本郷キャンパスにおいては、構造上の理由や築年の古さから建て替えることを念頭に置き、耐震性向上を主眼としてきた。そのため、建て替えのための近隣の隣接用地の購入がどうしても必要で、この購入に全力を傾注してきたところであるが、土地上に借家人等との問題もあり折衝が難航していたところ、2011(平成23)年の東日本大震災を機に一気に取得交渉が進展することとなり、キャンパスの耐震化に向かう好機を得ることとなった。そこで、



この建て替え計画を創立90周年事業計画として推進すると共に、この計画を中心に「キャンパス整備基本デザイン(創立90 - 100周年に向けて)」を今後の施設整備の基本として2012(平成24)年に定め、この計画に合わせた整備の推進が始まっている。

この基本デザインはまず耐震性の向上と、築後25~30年経過した校舎等を系統的に見直すきっかけとなり各校舎の現状分析や今後の取り組みに役立つこととなった。

特に耐震性の向上についての検討は一時、野晒しになっていた部分にも焦点を充て今後3~4年の間に旧耐震基準の建物で基準を下回るものをすべて改修するという方針で確定された。

特に本郷キャンパスにおいてはキャンパスに存在する旧耐震基準建物3棟のすべての建て替えを行うことで具体的に設計が行われ、その第1段の代替え建物(東本館：S造3階建、延床面積3,586㎡)の建築が開始され2012(平成24)年8月に完成し、S館(昭和39年竣工、延床面積4,406.8㎡)の解体を9月より開始し、その後に新しい校舎「新S館」(S造11階建、延床面積(概算)9,770㎡)の建築が予定され、2014(平成26)年1月に完成後東キャンパスに在り地される旧耐震建物(一部耐震補強済)を解体することにより本郷キャンパスに於いて旧耐震建物はすべて取り払われ、耐震問題はすべて解決されることとなる。

さらに、建て替えられる2棟は新耐震基準の1.25倍の強度を持つ制振構造として設計され学校の防災拠点となるだけでなく、地域防災の拠点としても位置づけられるように、非常時の発電能力の向上、飲料水の72時間供給の確保等が盛り込まれたものとなっている。

ふじみ野キャンパスにおいては今後、耐震の1次診断においてIS値の低いものから順に2次診断および診断に基づく補強に取り組む予定で、2012(平成24)年度はドームふじみ野(キャンパスに隣接する学生寮)A棟の2次診断を行い、その結果により2014(平成26)年度の改修を予定し、その後各年度に1棟ごと(残り2棟)診断・補強を行うこととなり2016(平成28)年度にはIS値0.7以下の建物の補強が完成することになり、本大学の耐震性については、すべて基準内に収まることとなる。

また、施設全般の評価としては、毎年行われる学生の意識調査を点検し学生からの意見要望を取り入れ、本郷キャンパスにおいては狭いながらも満足度の上がるように、ふじみ野キャンパスにおいては、不便を感じさせないキャンパスライフが送れるように配慮をしている。

## <2>十分な校地・校舎および施設・設備の整備について

本郷キャンパスにおいては前述の耐震性向上を目的とした建て替えのため代替え校舎建設用地が必要であり、様々な検討をしてきた(検討内容としては、既存の校舎の上にオーバブリッジで校舎を建てるとか隣接営業駐車場を借り上げて仮設校舎を建てるなど)が、いずれも実現できずにいたところ、隣接駐車場用地地主との間に2011(平成23)年の東日本大震災を機に一気に取得交渉が進展することとなり、2011(平成23)年7月に取得するに至った。取得用地は1,189㎡であったが隣接する法人所有地379㎡を大学用地に用途変更し、合計1,568㎡の代替え校舎建設用地を確保することができると共に本郷キャンパス全体としても13,197㎡から14,765㎡へと増えることになり、ゆとりのある教室空間の構成が可能となった。

また、本郷キャンパスのバリアフリー上ネックになっていたS館の建て替えが行えること

となり、創立90周年事業が完成する2014(平成26)年度中にはすべての場所へ車椅子での移動が可能となりバリアフリー化が完結する。

### <3>図書館学術サービスについて

#### 1) 図書館の整備方針

雑誌については冊子体に加えて2002(平成14)年度より、オンライン・ジャーナル・データベースの導入を開始した。当初は1種類のデータベースのみであったが、その後段階的に種類を増やし、現在では論文情報や新聞記事のデータベース等も含め15種類に増えている。主に数千タイトルの洋雑誌の全文記事等が速やかに閲覧できることとなり、大きな改善と評価できる。

#### 2) 利用環境

2008(平成20)年度の図書館システムの統合によって、これまでは各館ごとに行っていた蔵書検索が両館を横断的に調査できるようになった。その結果、学内ILLの利用が増加し、2007(平成19)年度の206件から2008(平成20)年度の779件へ4倍近く処理件数が増加した。その後も、毎年約800件程度の申し込みを処理している。

また、外部データベースとして、国立情報学研究所の総合目録データベース「NACSIS Webcat」が加わった。これに伴い学外の所蔵状況の迅速な調査が可能となり資料提供の効率が向上した。

2005(平成17)年度以降、両館とも授業期間中の開館時間の延長を行ってきた。本郷図書館は平日の閉館を20時、21時と延長を重ね現在22時閉館である。ふじみ野図書館もまた平日を20時から21時、土曜日を13時から17時、18時と延ばしている。このように学生の利便性を考慮し、改善を行っているのは評価できる。

### <4>教育研究等を支援する環境について

#### 1) 大学全体

各研究センターの活動が活発に展開されており、第2章に詳述されるように、本郷・ふじみ野の両キャンパスにおいてキャンパスの特性に合わせた成果が上がっている。

#### 2) 情報教育研究センター(本郷・ふじみ野)

本郷キャンパスにおいては、コンピュータ実習室として、CTR1～CTR5のWindows端末は一つの閉じた教室ネットワークシステムとして構築されており、Active Directoryによる統合認証を実現し、移動ユーザプロファイルを採用することで個人環境を提供し、その設定をスクリプトで自動化して、初心者でもストレスなくコンピュータ利用が始められるよう留意している(資料7-16「統合認証マニュアル」)

また、「教材配布」「教科書閲覧」「課題提出」がすべてオンライン化された授業が展開できるようになっている(資料7-17「学習支援サイトMoodle案内」)。CTR6～CTR7のMacintosh端末では、デザイン教育に対応しうるグラフィック処理ソフトを各種そろえ、タブレットやB0ノビ対応の大判プリンタを設置して学生の創造力を自由に伸ばす装備にしてある。一般教室においても、一部の教室を除いて、教師用にはコンピュータ教室と同程度のIT/AV環境が整えられており、インターネットや他のマルチメディア教材を使用できるようになっている。なお、

全教室が有線・無線LANに接続されており、少なくともノートPCをインターネットに接続するのは常時可能である。上記の教室以外にも、マルチメディアラウンジでは21台のWindows端末や14台のMacintosh端末が自由に利用可能で、学生たちのコラボレーション学習に寄与している。Windows端末・Macintosh端末共に多国籍仕様のOSを採用し、多言語で使用できる環境を整えている。また、Windows端末には日本語以外に英・仏・独・中・韓5カ国のキーボードを取りそろえ、留学生にも大変好評を得ている。

ふじみ野キャンパスでは、情報教育演習室1～6、教育工学演習室のほか、B'sメディアラウンジ（図書館別館）を含め Windows/UNIX のマルチOS環境や利用可能なアプリケーションを統一しており、どの教室のどの端末でも同じように利用できる。

講義室のIT/AV環境についても同様に整備しているが、PCは常設しておらず教員の持込みのほか、講師控室や情報教育研究センターにて貸し出す対応となっている。

## ②改善すべき事項

### <1>教育研究等環境の整備に関する方針について

築後25年～30年の建物が多く存在するふじみ野キャンパスにおいて、耐震補強の予定は決定したが、基本的な室配置や機能について明確でない部分があり、改修に先立ちその検討をする組織をつくり、その意見をもとにグランドデザインを理事会(法人事務局)がつくっていく必要がある。

### <2>十分な校地・校舎および施設・設備の整備について

本郷キャンパスにおいて、今まで主キャンパスであった本郷通り西側に対して今回面積増を行った東部分(東キャンパス)の利用頻度が上がることになり、東キャンパスと西キャンパスの往来について改善が望まれる。

地下鉄コンコースを利用して、東キャンパスと西キャンパスを往来できる整備を検討していく。

### <3>図書館学術サービスについて

教員の選定や学生の希望により視聴覚資料の増加の割合が増えている。2007(平成19)年度の所蔵数は5,610件、2011(平成23)年度は7,389件であり約3割増である(図書は約1割増)。

視聴覚資料を利用した課題が出されることもあり、AVブースの整備充実を図る。

### <4>教育研究等を支援する環境について

#### 1) 大学全体

ふじみ野キャンパスの保健医療技術学部においては、学習サポートセンターの機能を助手室がこれを代替える環境にあるが、助手室のない人間学部の一部の学科等の学修指導(サポート)については今後検討を要する。

#### 2) 情報教育研究センター(本郷・ふじみ野)

自学自習の促進という観点からは改善の余地がある。授業が集中する9時～15時30分頃までは、自由に使える端末数はそれほど多くはない。通常期はそれでも十分だが、学期末や学年末のレポート、課題、ゼミ論文、卒業論文が集中する時期には満席の状態が続き不足

気味である。完全自習用のコンピュータ室の拡充が望まれる。

一般教室に整備されたIT/AV環境を活用するために、マルチメディアの教育に活用することの啓蒙・研修、授業の内外における技術的支援体制をさらに充実させることが重要である。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

教育研究等の環境を整備するに当たり、本学においては、限られた資源の中、学生が如何に勉学そして部活・グループ活動に使いやすく集いやすいものにできるのか、また、研究環境として教員・学生が研究に勤しめる環境を如何に有効に提供することができるかが肝要であると捉え、下記のように様々な取り組みを行い、成果を得ているところである。

##### A. 安全な施設提供を確立すること。

中期計画の進行と共に大学の環境と施設の安全性が整っていく将来像が示され、教職員が自信をもって学生指導や研究に取り組むことが可能となった。

##### B. 十分な空間環境を提供すること。

計画の進行による学生の居場所としての空間の確保に努めているところであり、本郷キャンパスにおいては事業計画完了に伴い校舎現況面積32,734.23㎡が39,241.67㎡と増える。

これにより2013(平成25)年度入学者をベースとした収容定員(2,260人)から見ると学生一人当たり17.4㎡となる。さらに2014(平成26)年度の計画完了と同時にラーニング・commons等の増設、図書館の多目的利用室等の積極的な配置ができる。

また、保健医療技術学部に予定している新学科の増設が行われた場合も、増設による収容定員は300名の増の2,560人であり、これを加えても一人当たり15.3㎡と十分な環境が維持できることを確認している。

##### C. 学生・教職員が大学になじみ、使いやすい利用環境を提供すること。

計画の進行による学生の居場所としての空間の確保、IT環境の大幅な増強、図書館サービスの多元化が図られ、学生の満足度調査においても良好な結果を得ている。

居場所としての環境は、本郷においては、今回の計画が完成するとラーニング・commonsとされる空間が純粋に577㎡ほど増えることとなり、学生の活用が期待される。

図書館においても、本郷・ふじみ野ともに2005(平成17)年度以降、授業期間中の開館時間の延長を、本郷図書館は平日の閉館を20時、21時と延長を重ね現在22時閉館、ふじみ野図書館は、平日を20時から21時、土曜日を13時から17時、18時と延ばしている。

また、システム統合によって、これまでは各館ごとに行っていた蔵書検索が両館を横断的に調査できるようになった。その結果、学内ILLの利用が増加し、本郷図書館では2007(平成19)年の102件から2008(平成20)年の389件へと4倍近く処理件数が増加している。また、外部データベースとして、国立情報学研究所の総合目録データベース「NACSIS Webcat」が加わった。これに伴い学外の所蔵状況の迅速な調査が可

能となり資料提供の効率が向上した。

今後、保健医療技術学部に新学科を開設する計画などのためにより多くの学術情報を入手できるよう取り組むが、図書館書架の増設等が本郷では行われ、その対応が可能となった。

また、本郷キャンパスでは図書館内にラーニング・コモンズのスペースを設け静粛環境以外にもグループ学習等が積極的に行える環境が整備でき、図書館の活用率を上げる工夫が実地に落とされるようになったことは大いに評価できる。

ふじみ野キャンパスでは図書館別館 B'sメディアラウンジにてラーニング・コモンズの機能を提供してきたが、今後は図書館内に統合されたラーニング・コモンズの整備が待たれるところである。

情報教育に関し情報教育研究センターにおいては、コンピュータの利用環境を、本郷キャンパスでは、2008（平成20）年度にマルチメディアラウンジのリニューアル、2009（平成21）年度に自習室、2011（平成23）年度にCTR室の機器増設を行った。また、より良いPC環境改善のためにネットワークサーバーの追加を行い利用環境は大幅に整ったが、さらに2014年の施設環境整備が完成すると、本郷キャンパスに於いて現在教室以外で完全に自習用として利用できるPCが50台と限定的であったものが、193台へと大幅に増え学生の多くの要望に応えることができるようになることは、大いに評価できる。

ふじみ野キャンパスでは平成23年度に272台の機器リプレースおよび96台のバージョンアップを実施し、合計368台のパソコンの環境統一をはかった。自習環境としてはラーニング・コモンズの16台、オープンスペースの10台があるのみだが、設置場所確保の問題から増設は困難となっている。これを補うため、情報教育研究センターや図書館で20台余のノートPC貸出体制を敷いている。

以上のように本郷キャンパスを中心に大きく教育研究環境の改善が進む。

## ② 改善すべき事項

ハード面では、建物の耐震性を含めた防災機能は、本郷キャンパスでは大幅に強化されることになるが、ふじみ野キャンパスでは、防災機能の強化が求められる。特に災害時に対して、キャンパス間連絡をどう対応するか、連絡ツールを含めて決定していかなければならない。これらの整備計画を2012（平成24）年度中に停電時非常発電での補償範囲、連絡機器選考を終え、2013（平成25）年度には明示できるようにする必要がある。

また、比較の問題ではあるが、本郷に比してふじみ野キャンパスがラーニング・コモンズ等を中心とする新しい教育へ向けた施設の不足が今後顕在化してくる可能性もあり。中期計画の中でキャンパスの特性と兼ね合わせ整備計画の策定を行う必要がある。

次に、4学部4研究科からなる約5,000人の教職員・学生・大学院生の研究と教育に資する中枢として役割を担う図書館が、やや狭く、特にふじみ野キャンパスに於いては、近い将来に向けて何らかの対応を講じて行く必要性があり、キャンパスデザイン計画のふじみ野整備計画に対して検討を深めていく必要がある。

また、一般教室に整備されたIT/AV環境を活用するために、マルチメディアを教育に活用することの啓蒙・研修と授業の内外における技術的支援体制をさらに充実させることが重

要であり、マルチメディアの教材作成支援の充実を図り、さらなる学生の自主学習の環境を整備することが必要である。

#### 4. 根拠資料

- 資料7-1 中期計画「キャンパス整備基本デザイン(創立90-100周年に向けて)」
- 資料7-2 施設・設備の面積等  
(1.校地、校舎、講義室、演習室等の面積、2.実習室の面積)
- 資料7-3 大学総合配置図
- 資料7-4 災害備蓄品一覧
- 資料7-5 図書館運営委員会議事録
- 資料7-6 図書館入館者・蔵書数年次比較表
- 資料7-7 図書館利用案内・図書委員会議事録
- 資料7-8 本郷図書館平面図
- 資料7-9 ふじみ野図書館平面図
- 資料7-10 文献探索ガイダンス資料
- 資料7-11 紀要公開ページ画面(写し)  
<http://www.u-bunkyo.ac.jp/center/library/journal.html>
- 資料7-12 情報教育研究センター利用案内
- 資料7-13 申請書類提出依頼
- 資料7-14 Webメールマニュアル
- 資料7-15 無線LAN化の案内
- 資料7-16 統合認証マニュアル
- 資料7-17 学習支援サイトMoodle案内